

坂田警軒 おびたけ 漢學者。天保十年五月五日備中國川上郡九名村生れ、
 明治二十二年八月十五日歿（一八元一十九）。講文、字夫卿、通稱丈助、
 のち丈平、また阪田丈、阪田丈平とも署す。別號九邨、警軒小史、警
 軒散人、警軒潘夫等。阪谷朗廬の甥。嘉永六年朗廬の郷警興讓館主と
 なるに從ひ入學、都講に至る。葛延中肥後の木下崖潭ひ入門、井上毅、
 竹添井々と共ひ木門ニ才子と稱せられた。更ひ江戸へ赴き安井忠軒ひ
 學ぶ。備前藩老池田氏の賓師を経て、明治元年朗廬の後を承け興讓館
 館長となる。十二年感讓會議員、次で議長、二十二年恭讓院議員。こ
 の間、閉谷蟄、同志社を教へ、その後慶應義塾、高等師範學校、斯
 文學會、哲學館等の講師を務めた。
 『警軒文鈔』（明治二十八年刊）がある他、『朗廬文鈔』全三冊（明
 治十八年十一月阪谷次雄出版、吉川半七・須原鐵一・博識社發賣）をこ
 編纂刊行。



龍馬東屋お公女好く換る何れ
 此世盛衰王運奪り不廻相露
 温裳衣 詠文 警軒稿之二